

令和4年第2回北海道議会定例会 予算特別委員会（第1分科会）開催状況（環境生活部所管）

開催年月日 令和4年6月27日（月）
 質問者 共産党 宮川 潤 委員
 答弁者 環境生活部長 森 隆司
 環境保全局長 竹澤 祐幸
 水・大気環境担当課長 中尾 睦子

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>三 福島県対策地域内の高濃度PCB廃棄物処理について 次に、福島県対策地域内の高濃度PCB廃棄物処理についてであります。</p> <p>（一）有識者意見記録の開示拒否について 知事は、福島県内の高濃度PCB廃棄物の受け入れを妥当と判断されましたけれども、住民の有識者意見の記録の開示請求に対しては、記録は存在しないとしました。意見聴取から、決定に至る経過、記録不存在の理由、その根拠をお示しください。</p> <p>（二）政策決定過程の説明責任について ホームページ上で公開したということはわかりましたけれども、記録がないということについては明らかにされなかったと思います。国と道は、住民説明会、パブリックコメント、監視円卓会議、現地確認などを行い、道議会でも議論となりました。多方面にわたったこのような経過を踏まえて、会議を行った上で判断すべきであり、住民に政策決定過程の説明責任を果たしているとはいえないのではないですか。お答えください。</p> <p>（三）説明責任について とりまとめてホームページに掲載したということはわかるんですよ。私が求めているのは正式な記録ということでもあります。汚染対策地域のPCB廃棄物は、住民の理解なしには受け入れできないものと、そういう性格もあるだけに、説明責任を果たすうえで、会議録の作成が必要だったはずであり、問題点を明らかにすべきですけれども、いかがですか。部長、ご見解をお聞かせください。</p> <p>特に重大な問題や、道民の関心の強い問題については、道民への説明責任のあり方を再検討すべきだと考えます。決裁によって、政策決定が行われる場合、どういう判断でその決裁に至ったのか、少数意見や反対意見の有無、それらをどう斟酌したのか、詳細に示す必要があると考えます。文書管理規程では、打合せ記録を作成すること、会議メモや録音をもとに議事録を作成することが明記されております。一面的な結論だけではなくて、意思形成過程としての会議の発言内容や、別の結論になった場合に想定されることなど、多面的で詳細な記録が残され、道民に公開されることで、道民からの信頼が厚くなると考えます。今回の問題は、会議記録の不存在について、住民から疑問が出されております。納得してもらえるような説明が必要であるということをお示しを申し上げて、質問を終わります。</p>	<p>（水・大気環境担当課長） 有識者からの意見聴取についてでございますが、道では、国の処理方針につきまして、放射性物質による影響などについて、2名の有識者の方々に処理方針や現地の状況を確認いただき、科学的見地から、それぞれ個別にご意見を伺ったところでありまして、聴き取りましたご発言を本人にご確認いただいた上で文書に取りまとめ、道のホームページで公開したところでございます。また、国の処理方針につきましては、国から地元住民の皆様へ複数回にわたって説明が行われたことや、道が実施しました職員や専門家による現地確認の結果に加えまして、処理の安全性などに関する有識者からのご意見や、受け入れを表明した地元室蘭市のご意向などについて総合的に検討を行い、妥当と認める旨を決定したところでございます。</p> <p>（環境保全局長） 判断の経緯についてでございますが、今回の国の方針への対応については、道民の皆様に分かりやすく説明することが必要であると考えており、このため、主な経緯や監視円卓会議での議論、現地確認や有識者からの意見聴取の内容など、道が実施いたしました対応状況等について取りまとめ、随時、道のホームページに掲載するとともに、監視円卓会議において報告するなど、道民への説明に努めてきたところでございます。</p> <p>（環境生活部長） 道民の皆様への説明についてでございますが、PCB廃棄物の処理事業を進めるにあたりましては、住民の皆様のご安全・安心の確保が何よりも重要でありますとともに、地元の理解を得ることは、大前提と認識しております。このため、道といたしましては、福島県の対策地域内の高濃度PCB廃棄物の処理に関しまして、理解と協力を求める国からの申し入れへの回答にあたりましては、判断に至った経緯について、道議会でご議論いただくとともに、道のホームページなどでもこうした考えに至った経緯や対応状況について広くお知らせしていることに加え、監視円卓会議において、お示しをするなど説明に努めてまいりました。道といたしましては、引き続き、各種規程に沿って、公文書の適切な作成・管理を行うとともに、わかりやすい情報の発信に努めてまいります。</p>